

(様式第4号)

上田市学校給食運営審議会（第2回） 会議概要

1 審議会名	第2回上田市学校給食運営審議会
2 日時	令和4年12月2日 午後7時から午後8時10分まで
3 会場	市役所本庁舎 5階 大会議室
4 出席者	廣川 高会長、甘利 尚之副会長、王鷲 哲哉委員、小林 勝弘委員、城下 敦子委員、城田 真裕委員、鉄矢 絵美委員、八巻 恵子委員
5 市側出席者	峯村教育長、小野沢教育次長、長田学校教育課長、清水第一学校給食センター所長、武捨第二学校給食センター所長、坂口丸子学校給食センター所長、加々井学校教育課学校教育担当係長、石坂学校教育課主査
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	5人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和4年12月13日

協 議 事 項 等

1 開 会（事務局）
2 会長あいさつ（廣川会長）
3 協議事項
（1）令和5年度からの適正な学校給食費の算定について
・資料に沿い、事務局から「令和5年度からの適正な学校給食費の算定について」の説明
・以降、協議
（委員） 追加資料2の各学校給食センターの価格比較はどのような単位か。
（事務局） 主な食材の1キロ単位当たりの比較となっている。
（委員） 鶏ガラ出汁と煮干し出汁の価格の比較については、国産・外国産どちらか。
（事務局） 両方とも国産になっている。
（委員） 第一回審議会質問に対する回答①については、給食費が比較的高く設定している塩尻市に調査した報告を聞き、自校給食校の真田・武石地域と共通の課題があることが良く分かった。第一回審議会質問に対する回答②のルウや出汁について、追加資料1と合わせて説明いただき、ルウや出汁をとるだけのために早く出勤してなく、他の作業と並行して実施していることが分かった。報告では、カレールウに関しては既製品が6円高い、天然だしと既製品の出汁とではそんなに大きな差がなく、ルウも手作りし、出汁も天然を使うということで、今までの方針を変更しないという考えで認識すれば良いか。
（事務局） 市の方針としては、既製品ではなく手作りでの給食の提供に努めたいと考えている。
（委員） この事はとても良い事だと思うので、保護者の皆さんや学校側にももっとPRというかアピールをするなど、食育になると思うのでよろしく願います。
（事務局） PRなどを行い、今後も安心安全な給食の提供に心掛けたいと思う。 給食費の中の経費については、人件費や光熱費については市の一般会計で負担しているので、今回の給食費の改訂については、食材費のみの価格ということでご理解いただけたらと思う。
（会長） 事務局から説明がありましたが、今回の改訂の主旨が物価の上昇ということでしたが、その点からご意見はありませんか。
（委員） 子育てをしているものの率直な意見として、24円の増額というのは、いろいろな資料をそろえていただき、物価が上昇しているというのは納得している。子どもが多い世帯では一日24円一律の値上げとなると、家は中学生が3人、小学生1人子どもがおりまして気になっていったいどのくらいになるのか計算をしたところ、増額分が1ヶ月で1,920円、1年で23,040円となりました。給食費だけで計算すると1年間で299,160円かかってお

りまして、それが 322,200 円 1 年間でかかるということになる。学年費と給食費を合わせると毎月 62,125 円学校が徴収しているので、実際にちょっと大変だなというのが率直な意見である。家は子どもが実際多いので倍々となって増えてしまうが、1 人の子どもならばこのくらい大丈夫かなという気持ちにはなれるかもしれない。私の家は×4になるので、上田市にも 3 人 4 人の子どもがいるご家庭も多くあるかと思うので、金額のところは納得しているが、そういった世帯を支えるというか、子育ての制度により、これから担っていく子どもに対しての考えはないものかなと思っている。

(委員) 給食現場としては、今まで通り子ども達にできるだけ材料のしっかりしたものを提供していきたいと考えており、出汁についても、鶏ガラのスープにしても、こだわっていききたいと思っている。引き続き保護者や学校へもこだわっている点をきちんと伝え、子ども達へも食育ということでもしっかり伝えていきたいと思っている。

(委員) 保護者の立場で給食費をお支払いしているが、前回の審議会である委員の方から多少値段が上がっても食育面から栄養価の高い給食を子どもたちに提供してもらいたいという意見もあった。物価が上昇していて材料費が値上がりして、給食費が値上がりしても仕方ないと思うが、保護者の中には質・量を抑えてでも給食費を維持してほしいという意見もあるかも分からない。そのような意見を保護者からアンケートなどを行って、検討するという事は考えているか。

(事務局) 両方の意見があると思う。前回も量についてご意見をいただいたが、1 日に摂取する栄養素は決められており、当然、量や質を下げるということは出来ない。安いものをとという御意見もあるが、食育の観点からも安全・安心な食材の使用ということの中で、国産のものを利用という部分もあるので教育委員会としてはアンケートを行う予定はない。引き続き、安全・安心な給食を量・質共に維持していくためには値上げもやむを得ないということで、今回ご提案させていただいているところをご理解いただきたい。

(委員) 改訂の際にしっかりと保護者に伝えてもらえれば理解は得られると思う。

(委員) 今回のこととは関係ないかもしれませんが、疑問に思うことがあり、今の第二学校給食センターを新しく改築しているが、食物アレルギー対応が完全に始まるのか。

(事務局) 現在の学校給食センターのうち、完全に食物アレルギー対応を実施しているのは、丸子学校給食センターだけになる。

(委員) 新しい第二学校給食センターの食物アレルギー対応はどうなるのか。

(事務局) 新第二学校給食センターは、食物アレルギー対応予定となっている。

(委員) 第二学校給食センターで新しいアレルギー対応の設備が建設された場合、食物アレルギーの対応食が始まると給食費はどうか。

(事務局) 基本的には食物アレルギー対応をしても、他の児童生徒と同じ給食費になり、同じ給食費の中で対応しており、アレルギー対応の有無での差は付けていない。

(委員) 納入する食材も変わらないということか。

(事務局) 保護者の皆さんからいただいている給食費の中で、食物アレルギー対応食を購入し、食物アレルギー食を提供しているという流れになっている。

(委員) 食物アレルギーのお子さんがすごく増えていて、食物アレルギー対応のお子さんの割合が上昇したら、全体の給食費が値上がりしてしまうと思い質問した。

(委員) 手作りのものを小学生・中学生の頃から食べることが将来的に大事、そういった感覚を持つ事が将来の健康に繋がっていくのではないかと私は思う。

(委員) 学校給食センターから校内放送用の原稿を給食委員が読み、放送することで、手作りの良さや玉ねぎ・人参の産地説明などについて生徒が読んで、教職員を含め皆で放送を聴いて非常に勉強になっている。

したがって、24 円の増額は私自身として理解している。前回もお話させていただいたが、中学生は体を作っていく大事な時期なので、質も量も整えてもらえると有難いと思う。

(委員) お金か、栄養素をとるのかという部分で、前回の審議会で委員が発言していたが、ある程度きちんと栄養がある給食を提供した方が良いというご意見に共感した。生活費を含め、いろいろなものが値上がりして大変な時期だとは思いますが、児童生徒の栄養素を一番安心して提供しているのは、学校給食であるので、とれる栄養はきちんととり、子どもたちの成長に欠かすことのできない給食なので、しっかりと献立を立てていただきたい。加えて、できる限り、市の方にも光熱費等々ご負担いただく部分があるかと思うが、最大限バックアップしていただきまして、子どもたちの成長の力になっていただきたい。

(委員) 追加資料2の中にいろいろな食材の前年比較があるが、当然その年の作況によって単価は変わってくる。人参、玉ねぎについてはおそらく北海道の夏の天候不順であまり出来なかったため、相場が上がっているのだろうと想像出来る。間違いなく上昇しているのは生産コストであり、資材・人件費・輸送に関わるコスト、全て上がっていると実感している。コストアップの部分が、生産者にうまく還元できるような仕組みも作っていかなくてはならないと思っている。給食費の増額となった場合は、上田市としても是非生産をしている方にこの事実がうまく伝わっていくようなオープンな方法で周知を図れば、生産者の方も納得していただけるのではないかと考える。

(委員) 基本的には、出来れば値上げしてほしくないが、物価の上昇分の避けられないコストの事も分かるので、わがままで無理な部分だとも承知している。交付金などの活用により、給食費が上がらなくても済むような財源確保が出来るのであれば一番望ましいが、それが無いのであれば、保護者の意見として、家計的には出ていくものが増えるということは厳しいことではある。正直、家で栄養を与えられていない分を学校給食で摂取してもらえれば、私達は助かる部分があるので、値上げは致し方ないのかなと思っている。

(委員) 命を保障するための食、食育というのは大切だと自分は思っている。手作りであるとか安全であるとか、安くて栄養のあるものを工夫しているということを是非、いろいろな人にもっと宣伝してほしい。学校給食センターが上田の食の安全を代表するシンボリックな存在であって欲しいと思う。体を育てる給食、体が育つことの保障になる給食、給食という制度がある限りは子ども達にとってより良いものであってほしいと思っている。質・量的なものをしっかり保障をするということを第一に考えてもらいたいと考えている。

(委員) 給食費を負担している子どもの多い家庭の給食費を負担してくれる市町村などがあるので、全員分とは言わないので、4人のところ2人になればやはり金額が半分になる。給食費だけでなく、学校関係や自宅での食事の面もあり、やはり子どもいればいるだけそれなりに、子どもの数だけその分のお金がかかってくるので、そういったところが可能であるかどうか是非ご検討いただきたい。

4 事務連絡

5 閉 会 (事務局)